



La Strada





Daniele Bragetti Seiko Tanaka



SWEET FLUTES



Mutsuyuki



Mitsuko Ota



Shigeharu Yamaoka



Kazuo Hanaoka



Minory Yoshizawa



Kohei Koike



Akimasa Mukae



Naoyuki Otake



Masako Hirao Hiroshi Fukuzawa Naoki Ueo

Ryunosuke Okada

「リコーダーアンサンブルの世界」

デュオ・トリオ・カルテット・クインテット

7/25 15:30

La Strada

(吉沢実、川端りさ、浅井愛、河村理恵子、飯塚直子、野崎剛右)

H. U. シュテープス: ロンデッリ 斉藤恒芳:七つのタブロー

レ・サンク・サンス

(山岡重治、向江昭雅、古橋潤一、矢板由希子、平尾雅子、能登伊津子)

T. メールラ: カンツォン「うぐいす」 カステッロ:ソナタ第17番 廣瀬量平:田園詩I

田中せい子&ダニエレ・ブラジェッティ

リチャード・ミーコ:ファンタジア ゲオルク・フィリップ・テレマン:ソナタニ短調 アミーコ・ドルチ:新リチェルカーレ4番

SWEET FLUTES (本村睦幸、太田光子、村田佳生)

> モンセラートの朱い本より:おお輝ける処女 ジョスカン・デプレ:もし恋人を失ったら ボールドウィン:カッコウ ほか

「リコーダーソナタの世界」

8人のリコーダー奏者による8曲のリコーダーソナタ

7/25 19:00

本村睦幸 J. S. バッハ: ソナタ ニ短調 (オルガンソナタ第3番による)

太田光子 マルチェロ:ソナタ第12番 へ長調

山岡重治 レイエ・ド・ガン:ソナタ作品1の3

オトテール:プレリュード 二長調 花岡和生

ヘンデル:ソナタ ハ長調 (アムステルダム版) 吉沢実 テレマン:ソナタ ニ短調

小池耕平

向江昭雅

大竹尚之

マンチーニ:ソナタ第1番 二短調

G. サンマルティーニ: ソナタ第 11 番 変ロ長調

平尾雅子、福沢宏 (ヴィオラ・ダ・ガンバ) 通奏低音 上尾直毅、岡田龍之介 (チェンバロ)

14:30

「ブロークンコンソートと室内楽」

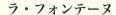
リコーダーを含む多彩なアンサンブル



(濱田芳道、石川かおり、西山まりえ、ゲスト 古橋潤一)

B. デ・セルマ:

2つのソプラノのためのカンツォン第 10番 ほか



(江崎浩司、三宮正満、高群輝夫、水永牧子)

ヴィヴァルディ: コンチェルト ト短調 RV.103 テレマン:トリオ ヘ長調

カテリーナ古楽合奏団

(松本雅隆、上野哲生、千葉潤之介、品川治夫、長井和明、吉嶺史晴)

ファレーズ編:舞曲集より

作者不詳(14世紀イタリア):エスタンピー「三つの泉」

ルストホッファース

(本村睦幸、櫻田亨、上尾直毅、ゲスト 鈴木美登里)

パーセル:おお、私を泣かせて!

テレマン:カンタータ「激昂をやめて復讐を消し去れ」



Anthonello



La Fontaine



Catherina Early Music Consort



Lusthoffers



18:00

「リコーダーの現代」

現代音楽からアニメ曲まで

吉沢実

廣瀬量平: Illusion of the Crecet

吉嶺史晴+本村睦幸

吉嶺史晴:2本のテナーリコーダーのための「カイ」

鈴木俊哉

L. ベリオ: ジェスティ (1966)

L. コーリ: D「階段の館ょり」(1993)

細川俊夫:線1b(1984/2002)

リコーダーアンサンブル〈ステラ〉

(渡辺清美、細岡ゆき、矢板由希子、浅井愛)

V. ウィリアムス:パイプのための組曲

スーパーリコーダーカルテット

(藤田隆、北村正彦、秋山滋、松浦孝成)

M. マウテ:プレリュードとフーガ 木村知之編曲:大きな古時計

東京リコーダーオーケストラ

(金子健治〈指揮〉、安井敬〈コンサートマスター〉

庄司祐子、矢板由希子、浅井愛、福岡恵、安井マリ、柳沢久実、宍倉法子、 河村理恵子、佐藤創、渡辺清美、平嶋淳摩、味澤明子、高橋譲二、松浦孝成、 細岡ゆき、北村正彦)

廣瀬量平:イディール II

梁邦彦:「英國戀物語エマ」の音楽より



Fumiharu Yoshimine

Tosiya Suzuki



Stella

Super Recorder Quartet



Tokyo Recorder Orchestra

リコーダー(たて笛)は、学校の音楽教育で広く使われ、日本人の多くが一度は吹いてみたことがある身近な楽器です。子供さんのいらっしゃるご家庭はもちろん、そうでなくても押し入れのどこかにリコーダーが眠っているかもしれません。日本で最も広く普及している楽器はリコーダーだといって過言ではないでしょう。そのように身近な楽器であるからこそ、リコーダー音楽の魅力を多くの方々にご堪能いただける機会が待ち望まれています。「東京リコーダー音楽祭 2009 」を機に、皆様をリコーダー音楽の世界にお誘いしたいと思います。

リコーダーの歴史は古く、13世紀以前のヨーロッパですでに使われ、中世、ルネサンス、バロックという何世紀もの音楽史の中で主要な木管楽器の一つでした。18世紀までは単にフルートと言えばリコーダーのことを指していたのです。バッハもカンタータやブランデンブルク協奏曲でリコーダーを登場させていますし、ヘンデルにも6曲の有名なリコーダーソナタがあります。ヴィヴァルディも種々のリコーダー作品を残しています。もちろん、ほかの多くの作曲家たちも、宝の山のようにいろいろな作品を残しています。さらに、リコーダーはとても融通の利く楽器で、声楽曲や他の管楽器弦楽器のための作品をリコーダーに編曲することも古くから頻繁に行なわれていました。リコーダーのレパートリーはバロック以前だけでも実に豊かなのです。

このように、リコーダーは昔のヨーロッパの楽器(いわゆる古楽器)のひとつですが、20世紀になって復興して以来、近現代の作品もたくさん書かれるようになっています。古楽器であると同時に現代楽器でもあるというのが、リコーダーの特質なのです。古い時代の天上のイメージや貴族的な優雅さなどを表現する楽器であるとともに、現代的な斬新さを備えた楽器ともなっているのです。特に1960年代以降は、重音、風音、音孔の打音など数々の現代奏法が開拓され、現代音楽の楽器としても注目されています。もちろん、教育楽器として普及し、アニメ曲やポピュラー系の音楽でも使われる親しみやすい楽器となっていることは皆様よくご存知でしょう。

近年、リコーダーを趣味として楽しむアマチュアの方々も増えて来ていますし、テレビをつけるとリコーダーの音が聴こえてくることも珍しくありません。少しの練習で美しい旋律を奏でることができて、ソロでもアンサンブルでも楽しめる。そして、吹けば吹くほど奥深い世界が広がって行く。それが人気の源となっているのでしょう。身近な親しみやすさとともに、幅広く奥深いリコーダーの世界についても多くの方々に味わっていただければ、皆様の音楽の世界がいっそう豊かになって行くに違いありません。

「東京リコーダー音楽祭 2009」では、2日間にわたり、日本のリコーダー界の総力を結集して、様々なスタイルのリコーダー演奏を繰り広げます。この機会にぜひ、この素敵な世界を覗いてみてください。

ディレクター (リコーダー奏者) 本村睦幸



全自由席

〈前売〉4公演通し券:12,000円 1日通し券:7,000円 1公演:4,000円 〈当日〉1公演:4,500円

チケット取扱い

◎ 各プレイガイドにて4月1日より前売発売 ※出演者およびプログラムは変更になる可能性があります

◆ チケットぴあ:0570-02-9999

〈Pコード 4公演通し券:782-268、1日通し券:782-269、1公演:318-506〉

- ◆ ローソンチケット: 0570-000-407 (オペレーター 10時~20時)、0570-084-003 (自動音声) 〈 L コード: 34227 〉
- ◆ イープラス: http://eplus.jp/
- ◆東京文化会館チケットサービス:03-5685-0650 (4月1日以降より)

お問い合わせ: 読売新聞東京本社文化事業部 03-3561-6346 http://info.yomiuri.co.jp/event/music/



元祖リコーダー・アンサンブル、創設メンバーで久々の来日!!

アムステルダム・ルッキ・スターダスト・カルテット

「ザ・ルッキ・ファイルズ」 ~ バッハにピアソラ、スティービー・ワンダー~ 6月24日(水) 19時開演 東京文化会館小ホール 全指定席:5,000円(税込)

インターネットでもお申し込みいただけます http://www.nipponartists.jp 主催:読売新聞社/日本アーティスト/カメラータ・トウキョウ 後援:オランダ王国大使館 協賛:株式会社東京エムプラス

